

●夏原グラント ステップアップ助成に向けて 申請期日 10 月 18 日 これまで 3 年間に 60 万円の助成金を受領してきた。そして里山農園の 1 号 2 号地に係るナラ枯れ木の伐採除去による農作業の安全対策を行った、また伐採巨木始末の割り機の購入が実現しに大きな成果を上げられた。引き続き白土山ルートの新設と農園の教育棟の掲示板の設置も実現できた。そして 3 年目の事業に 20 万円を受けて取り組んでいる。今回 10 月 18 日締め切りとしてこれまでの 3 年間と違い、4 年目以後については組織力アップを主とした資金の提供制度として、申請書の提出をとの連絡があった。本日の事務局会議では数回の議論を重ねてきたが、申請書の提出について賛否両論が噴出した。

●里山の会リーフの作成 年度当初からの議題で、「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」スローガンの実現に向けて、リーフの必要性が強調されてきたが、一向に具体化がされずここ数回の事務局会議で第 1 次案がようやく提案された。本日の会議では、議論百中の中で議論よりまず発行という発言に押されて、次回には完成品を提案されるよう強い意見があり、一同合意した。

●竹蛇籠製作講習会を 16 日と 21 日 22 日 23 日の 3 連続で実施 竹蛇籠の製作を 9 月 16 日を初日として始めた。参加人数は延べ 19 人で、4 本が完成。製作目標数は 27 本である。10 月末までに 10 日の製作講習会を予定している。これまでの製作スピードだと 10 月末には 19 本が出来上がる計算になり、完成目標数 27 本に対して 8 本が未完成となります。これまで 3 人一組での取組だったので、対策として製作組立人数の大幅増加を図るか、作業日数の増加を考えるか、それとも人数と日数をアップしなければ、このままのスピードでは間に合わないことになります。去年は予定製作日以外に作業日を設定して追い込みにかかったとのことでした。とりあえず計画している土日の定例講習会への参加人数を増加させることです。3 人一組の製作組を 2 組増加が出来れば、ことが足りることになります。また 10 月 12 日の製作講習会に 10 組が挑戦できればこれも前途が大変明るくなります。

竹蛇籠に関心をお持ちいただいている皆様、また良い川を作りたいと考えておられる皆様、10 月 12 日の蛇籠シンポジウムに先立つ午前中の蛇籠製作講習会に多数の皆様のご参加をお願いいたします。

●三種類の機械製作で均一の資材材料の提供に威力抜群の働き 前号でもお知らせいたしました、蛇籠の製作において、均一な幅の竹(幅 4.5 cm)をどれだけ提供できるかによって、作業能率が決め手になることを学び、今年取組から竹割り機による寸法の誤差の解消に力を入れてきました。そしてこれまでは幅の精製には鎌などの道具を使う手工業的な方法でやってきましたが、新しい竹割り機を使うことにより改善できることになります。

●孟宗竹と真竹と淡竹の見分けのポイント タケノコの時期が急所 孟宗竹の節部分は一重の筋が付いているとのこと。真竹の節の部分には二重の筋がついています。淡竹の節の部分には二重の筋があるように見えます。外観からはほとんど似かよって見え、分別がつけにくいようです。筍の時期は食用として用いられるのが山城の筍で孟宗竹です。田植え時分に出回るのが淡竹です。これくらいが私たちに判る見分け方ようです。淡竹と真竹の素人にも分かる選別方式を知りたいものです。

●草内倉庫前の伐採木の割り作業完了 ナラ枯れが蔓延する以前ではオオムラサキの成虫の確

認が数回実現できていました。コナラやクヌギの樹液を出しているものがかなり見つかったのです。そのうちにナラ枯れ木が目立ち始めると冬の幼虫は発見できていましたが成虫発見は激減しました。そのうえ昨年の台風 21 号で巨木がすっかり倒れました。同時にナラ枯れが蔓延し大きなコナラやクヌギがやられました。昨年はオオムラサキの幼虫の発見は 1 匹になってしまいました。山の斜面に数本のコナラがナラ枯れになりました。倒れると里山農園の 1 号地 2 号地に落下すると予想されるので、農園作業での負傷防止対策として伐採を実行しました。その木は直径 50 cm 以上で高さ 20m にも及ぶ大木 5 本以上でした。もちろんかかり木が心配されるので、その他の細い木も整理除去しました。伐採巨木の持ち出しのために玉切りをして草内の倉庫前の広場に運び出しました。このようにナラ枯れ木の出現による農園周囲の環境の大変化が引き起こされたのです。運び込んだ巨木の玉切りも積み上げるのがやっとのことでした。ここ 3 年あまりにも大きくて重たいので誰もが手を出すことなく放置してきました。いつまでも放置することにもならず、思い切って割り出すことにしました。大きな斧（鉈）を振りかぶって打ち下ろしても木片ばかりが飛び散ります。そこで斧に鉄の大ハンマーを打ち下ろす方式に変えました。少しのひび割れでも見逃さずそこを弱みとにらんで割りすすみました。重いハンマーの振り降ろしなので長時間連続作業はできませんので、休憩を挟んでの作業となりました。

●六つ目編みの急所 昨年は六つ目編みという言葉を知りました。蛇籠製作には、均一な材料の確保が一番の教訓でした。機械は竹割り作業は、高齢者にとって相当きつい重労働でしたが竹割り機の製作でこの作業から解放されました。今年は均一な資材の確保提供が急所だったので、幅精製機の製作に成功しました。まだまだ性能アップには改善の余地はたくさんありますが出来上がりました。次に昨年は一挙に 280 本の竹を割り切りました、すると 20 日もすると竹の柔軟性が失われて硬くなり、曲げるとあちこちで折れて継ぎ足しになり、思うように仕上がりにませんでした。そこで今年は、必要な道具や機具はリースで借り上げるのではなく、経費を心配しなくても使用できるように購入や製作に取り組みました。太田さんの大奮闘をいただいて軽トラックに使用できるクレーンの購入、土木工事用の地盤固めの転圧機（鈴鹿市まで出かけて廉価で購入）を手に入れました。これ等の道具機具の整備が進み、経費を心配しなくても、その日に使用する量の竹を割って、軟かで使いやすい新鮮な資材を手にすることが出来るようになりました。竹の納入量も 4 回に分割して行う納品方式に変更しました。数多くの改善を重ねた結果、竹蛇籠の製作には昨年ほど悪戦苦闘する場面がなくなりかなりスムーズに進めることが出来るようになりました。

●●●●●●●●竹蛇籠製作講習会

参加者募集中●●●●●●●●

**9 月 28・29 日（土・日）**

**午前 9 時 30 分～12 時まで**

**玉水橋東詰め 広場**

**JR 奈良線 玉水駅下車 西へ徒歩 5 分**

**手袋 帽子 作業服 作業できる靴**

**毎週 土日 連続開催**

**申込み必要なし 自由参加 現地受付**